

第44号

中六福祉だより

平成31年2月1日

中六人部地区福祉推進協議会

新春のご挨拶

中六人部地区福祉推進協議会 会長 藤田 重行

皆様方におかれましては、新春を穏やかにお迎えになられましたことを、心からお慶び申し上げます。旧年中は、中六人部地区福祉推進協議会の運営推進につきまして、ご支援、ご協力を賜りましたこと心から厚く御礼申し上げます。

昨年は、豪雨や台風など自然災害が多く発生し、例年にないほど避難所の開設がなされましたが、中六人部地域では、幸いにも大きな災害に繋がらなかったことがなによりでありました。

また、昨年におきましては、中六人部小学校が閉校するという中六人部の歴史に残る大きな出来事がありました。このことによります跡地活用の問題をはじめとしまして、中六人部の当面します諸課題が数多くあるところではありますが、今日、中六人部におきます最大の課題は、人口減少対策の問題であると考えます。

今、国の方で盛んに言われております2025年問題ですが、今の団塊世代すべてが75歳以上になる6年後には、全人口の3人に1人が65歳以上の高齢者になるという超高齢化社会の問題であります。

国の存亡に係わる大きな問題だと言われております。

中六人部の人口は、20年前には1,000人以上ありましたが、今や800人を割っている状態です。そして、65歳以上の高齢化率は45%であります。さらには、70歳以上の人口がすでに3人に1人の現状にありまして、人口減少と超高齢化の真っ直中の状況であります。

高齢化率が50%を超えますと、限界集落となりまして、そのままの状況が続きますと、そう遠くない将来には、集落が消滅するとも言われております。

そのためには、過疎化に歯止めを掛け、定住人口の増加を図る対策がどうしても必要であります。

中六人部に住んで貰える受け入れ体制をしっかり作っていく必要があると思います。

これからの中六人部のあり方について、少子高齢化による人口減少時代の中で、将来に向けてどうあるべきか、どのような地域づくりをしていくべきか、真剣に話し合っていくことが重要であると考えます。

それには、人口減少対策をはじめとして、中六人部に必要な各種施策を実現していくためにも、行政支援を最大限に活用して、持続的に事業をしていくことが肝要であります。

そのことが、地域の存続を図っていく方向だと考えます。

どうかこの中六人部が明るくて、活力あふれる地域となりますよう、皆様方の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、中六人部地域の益々の発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

「思いやりの心を大切に！」

市議会議員 藤田 守

皆様お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、中六人部の皆様には大変お世話になり、この場を借りて心から感謝御礼申し上げます。平成の時代も間もなく終わり新時代を迎えようとしています。今、中六人部小学校も閉校となり、安心安全で生活しやすい元気な地域づくりが大きな課題であります。また、少子高齢化が一段と進む中で、人と人との関係が希薄化し、地域を支える担い手の不足、社会的に弱い立場にある人への支援、子育て不安や児童虐待の問題など、福祉の課題は一層複雑化し、家庭、学校、行政だけでは解決できない複雑なケースが増えています。

さらに、地域や家庭が抱える課題は福祉の領域だけに止まるものでなく、解決のためには医療・介護・福祉の連携をはじめ、住まいや就労など課題を抱えている地域・家庭側の視点から支援が必要であります。民生・児童委員の皆様は、基本的人権の尊重を活動の原点として、社会奉仕の精神で、弱者の立場に立って、社会福祉の増進に努めて頂いております。その職務は、生活に困っておられる方への支援、高齢者や障害のある方、児童や母子・父子世帯の福祉の向上など広範囲にわたっています。地域の人々との信頼関係のもと、福祉制度に関する情報の提供、高齢者やこどもの見守り活動、また、災害時要配慮者の把握・支援など、住民の方々の最も身近な相談相手としてご活躍頂く委員の役割は重要で、その活動に対する期待は、年々大きくなって来ています。一方で、地域生活課題が複合化・多様化する中で、民生・児童委員の皆様に求められる役割は多岐にわたり、負担の増大が懸念されています。

このためには、思いやりの心を育てること、地域とつながること、課題を受け止める体制づくり、多様な活動主体の協働の促進、頼れる相談支援体制の整備、地域における生活環境の充実、個別の生活課題への支援などの取組みが重要であります。そして、何と言っても代表である「福祉ふれあいひろば」の開催継続は、交流の場の象徴であります。「思いやりの心を大切に！」助け合い支え合って、中六人部はひとつとなる強固な絆を願っております。

結びに、中六人部並びに地区福祉推進協議会の益々のご繁栄ご活躍と民生・児童委員様を始め皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ感謝御礼のご挨拶とさせていただきます。

福祉ふれあいひろばの様子（第74回・75回・76回）



長生きは、元気で明るく

島田一区民

福祉推進協議会で開催していただいている「ふれあいひろば」に参加して、楽しい半日を過ごさせてもらっています。

私も年を重ねるにつれて、体力の衰えを感じるようになりましたが、子どもが小さい時には、子守をしている時等に『おうた子に教えられ』ということが度々ありました。

長男が中学生の時、陸上部で活躍している姿を見て、私も少し走ってみようと思い、43歳になってから、家の近くの農道で足慣らしをして少しずつ距離を延ばしました。53歳の時に福知山マラソンが始まったのを機会に挑戦したのです。3時間台で完走でき、走った者でなければ分からない達成感で、苦しさ以上の自己満足でした。



11年間走り続け、途中ABC篠山マラソンにも2回参加して完走しました。以後は体力の限界で走るのを止めることにしました。

その間も福知山ジョギングクラブに30年間在籍しました。会員数は90人もいます。クラブの会長も務め走ることの楽しさを伝えていきました。

その後には、中六人部の有志で中村座を結成して、敬老会で活動する等7年間楽しい経験をさせてもらえました。

今は自分の体力のできるグラウンドゴルフで運動に精を出しています。

去年は、猛暑を含め「西日本集中豪雨」や各地の地震、台風等々自然の脅威と地球環境、社会情勢の変化に振り回されたように感じます。現在は超高齢化社会になりましたので、お互いに健康に気をつけて精進していきたいものです。

後になりましたが、ご家族の皆様の幸せとあわせて「ふれあいひろば」が益々発展いたしますよう祈念いたします。

『自分らしく生きる』

島田一区民

昨年7月の中六人権講座では、車椅子生活を送りながら綾部市役所に勤務されています中田達也さんのお話を聴かせていただきました。

障害者と聞くと「不自由で可愛そうだ」と弱者的なイメージが固定されてしまいがちですが、車椅子をスポーツ選手のように颯爽と乗られていましたし、家庭では家事を分担されていることや子育ての悩み、職場での様子など「少し工夫は要るけれど、不自由では無いんだ」と話をされました。



いつしか便利な生活が当たり前になってしまい、思いやりや感謝の気持ちなど、大切なことを忘れてしまっているのでは無いかと自問しました。

また昨年12月に、筋ジストロフィーにかかりながらも、自ら何十人ものボランティアを集めて自立生活をされた方の映画が公開されました。

一般的に身体が動かないと、まわりの人に対して「お世話をかけて申し訳ない」とか「少々ことは我慢しないといけない」という気持ちになりがちですが、この方はボランティアに遠慮することなど無く、ずけずけ物を言いい、障害が重いことにもかかわらず介護研修の指導者として活躍されています。

「健常者」と「障害者」、「支える側」と「支えられる側」が対等の立場で、24時間365日真剣勝負の毎日です。障害のある人にも、自分の要求を主張し、暮らす権利があることを忘れないようにしたいと思います。

高齢者支援に於いても、自分らしい暮らしを長く続けていけるように、それぞれの地域で福祉の充実が求められています。

ひとりひとりが関わり合いを大切にして、寛容でだれもが暮らしやすい中六人部を守っていけたらと願っています。

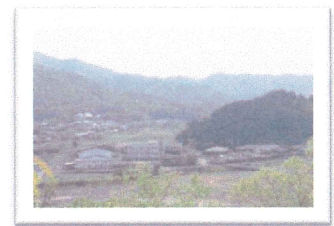
「ふるさとを思う」心と「痛み」の心

野間仁田一区民

新たな年が始まった。「新たな年」と、これまで何度言ってきたことか。年末年始ふるさとへ帰省する光景をテレビで見ると、ふるさとで迎える新たな年は、また感慨深いものがあるのではないかと推察する。ふるさとへの思いは、歳とともに変化していく。かつては私もそうであったように、山陰線で帰省する際、綾部を過ぎ、石原を過ぎ、土師川の鉄橋に差し掛かると同時に、鉄橋を渡る汽車の車輪の音と重なってふるさとへの思いが込み上げてくる。遠い日の懐かしく温もりのあるふるさとの光景が、頭の中のスライドに次々と映し出されていく。そのスライドは、何年経っても色あせることなく一生の宝物として心の中に生き続けていくに違いありません。

小学校の時に習った『ふるさと』の歌が、世代を超えて歌い継がれ、万人の心に響くのは、共通したふるさとへの思いがあるからだと思います。そして、その思いはふるさとという共通の環境（山や川や田んぼ等）の中で経験を通して培われてきたのです。年々世代を超えて共感できることが少なくなっていることや共通の価値観や判断基準が失われている社会の中で、共有できる共通の価値観や感情や感覚、そして人間としての当たり前の人間らしい思いとしての望郷の念は、心の柱の一つとしていつまでも大切にしてほしいと思います。

うさぎ違いし かの山
小ぶな釣りし かの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき ふるさと



一方、社会に目をやると毎日のように痛ましい事件が飛び込んできます、人間らしい思いがどこかに置き去りにされてきたのではないかと心が痛みます。どこかで他者の「悲しみ」や「痛み」に心を寄せることができなくなってしまったのではないかと思います。

かつて、司馬遼太郎さんは、「私たちは、訓練をしてそれを身に付けなければならない。」「訓練とは、簡単なことである。例えば、友だちが転ぶ。その時『ああ、痛かったろうなと。』感じる気持ちを、その都度、自分の中でつくりあげていきさえすればよい。」と、書かれていました。自分が傷ついた時のあの痛さを忘れず、他者にもまた同じような痛さを感じるという「痛み」の心を育てていくことが必要なのです。

「ふるさとを思う」心と「痛み」の心とは成り立ちは異なりますが、どこかで繋がっているように感じるのは歳のせいでしょうか。

地域の中で支えられて

野間仁田一区民

私は、毎日仕事を終えてから、一人暮らしになった実母が暮らす家に寄ってから帰宅しています。「ただいま」と声をかけ中に入ると、ほとんどの日、料理好きの母は台所に立って調理をしています。「今晚のおかずは何？」と聞くと、これも食べなれたおかずの数々。私も一緒になって母の傍らで他愛のないおしゃべりをしながら手伝うのが常になっていますが、そのおかずの行先はというと、私の家族用、私の妹家族用、時には近所へのおすそ分けになります。最近、母の味覚が少々変化してきたようで、ちょっぴり辛いのですが…、ありがたくもらって帰ります。

また、天気がよく暖かな日には、外に出て長柄のクワで草取りをしていることもあります。

しかし、そんな母は、両脚が不自由で手術した後も、両手それぞれに杖を持った生活をしています。毎日見かける調理も流しに寄りかかって体を支えながら、流しの傍らには二本の杖を立てかけての調理です。草取りも片手には杖をもう片手にはクワの柄を持つての作業です。

そんな母を昔からよく知っている同世代の近所の方は、母が一人暮らしになって、一層気にかけていただいているようで、食材のおすそ分けや家の前を通りかかった折に玄関から入ってきて声をかけてくださったり、ゴミを集積場まで持って行ってくださったりしています。とはいっても高齢化の波は、母が暮らす地域にも押し寄せていますが、互いに寄り添って補い合いながら、自分ができる範囲で、適度な距離を

保ちながら暮らしているように見えます。私が幼い時から記憶に残っている近所同士の関係が続いています。しかし、一方では日中は一人になることも多く、人と出会って話すこともままならないこともあり、デイサービスに行くように母に勧めてみました。最初は、前向きではなかったのですが、関わってくださった方々のおかげで毎日の生活に変化が生まれ、今では休むこともなく通っています。

多くの方にお世話になりながら生活していますが、どうしても身の回りのことは自分でせざるを得ないことが多いのも現実です。例えば、洗濯干し。両杖をついて濡れて重くなった洗濯物を干し場まで運ぶのは至難の業。母が考え出したのは、家にあった丸いカゴに紐を結び付け、その中に洗濯物を入れて、少し段差のある敷居も苦心しながら引っ張っていく方法でした。また、ゴミの回収日の前日には、夕方立ち寄った時にゴミ袋をまとめて、玄関に置いておき、翌日の朝、近所の方が集積場まで持って行って下さるのですが、私が立ち寄るのが遅くなった日、玄関にゴミ袋がちゃんと出ていたので、びっくりして聞くと、「今日はあんたが来られないのかと思ったで、杖でゴミ袋を押しながら持って行ったんや。」とのこと。そんな姿に、私は「申し訳ない。ごめんよ。」と思う一方で、微笑ましく嬉しい!と思ったのです。

そんな母を見て感じることは、支えていただくことへの感謝とともに、自分でできる範囲のことは自分ですることが、今の母が前を向いて生活していることに繋がっているように思うのです。

ふれあい交流会（保育園児との交流）の様子



福知山市社会福祉協議会は2018年度から2022年度の5か年計画を作成しました。下の体系の中にある「基本目標」「方向性」「福祉推進の取り組み」に私たちが実践していく内容が盛り込まれています。現在実施している「ふれあいひろば」や「ふれあい交流会」等、取り組みを発展させていきましょう！
《第3次福知山市地域福祉活動計画概要版も届けますので参考にしてください！》

福知山市社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画の体系

基本理念	基本目標	方向性	わたし・地域の願い・思い・声	福祉推進の取り組み
「みんなで作る 共に幸せを 生きるまち ふくちやま」 ～誰もが安心して暮らせる共に支え合える地域をめざして～	一人ひとりが地域福祉の担い手となるように ～寄り添い、支え愛あふれる こころづくり～ 	「お互いさま」のこころを 育みましょう ひとりぼっちのない 地域づくりを考えましょう	福祉について勉強してみたい 赤い羽根共同基金は何に使われているのだろう 地域であいさつや声かけをする サロンって何かな？私もやってみたい 気軽に行ける居場所がほしい 困っている人に何かしたい	福祉教育の推進（社会福祉体験学習、ボランティア育成） 福祉講座等（福祉出前講座、障害への理解） 共同募金運動 ふれあいいきいきサロン 居場所づくり 見守り活動の充実 信頼される組織づくり
	地域で課題解決に 取り組めるように ～参加と協働による 福祉のまちづくり～ 	地域の「力合わせ」を 大切にしましょう 地域の防災力を高めましょう たくさんの人とふれあう場を つくりましょう	地域の活動に協力したい さまざまな取り組みを応援する ちょっと困っていることを助けてほしい 子育てが大変…誰か助けてほしい 空き時間に今までの経験を活かしたい 災害が起きたとき、一人だと不安だ 普段から防災や災害時の対応ができるようになりたい たくさんの人と交流したい 困っている人を見かけたら声をかける ボランティア活動に参加する	地区福祉推進協議会との連携・支援 ささえあいパートナー事業 子育てファミリー・サポート・センター事業 災害ボランティアセンターの運営 （防災講演会、市民サポーター養成、地域協働訓練） 防災ネットワークづくり 当事者との交流（つどい） 当事者事業との連携 ボランティア事業
	住み慣れた地域で 生活し続けるために ～尊厳の尊重と自立支援の しくみづくり～ 	安心して暮らしている 地域づくりを考えましょう 何でも気軽に相談できる体制を つくりましょう 必要な情報を必要な人に 届けましょう	出来る限り住み慣れたところで暮らし続けたい 免許返納をしたけど外出したい 福祉の協力者となる 困っているときに支えてくれるところがあったら安心だ 相談の窓口が多いけど、どこに相談したらいいのかわからない 様々な制度や取り組みについて知りたい 広報やホームページ等から情報収集をする	生活困窮者フードバンク事業 安心生活見守り事業 在宅福祉サービス（介護保険内外サービスの充実、 外出支援サービス、障害者在宅支援事業） あんしん・みらい事業 福祉サービス利用援助事業の推進 生活福祉資金貸付事業の推進 成年後見事業（市民後見人の育成） 関係機関等との連携強化 ふれあい福祉相談事業の充実 広報活動（ホームページや広報誌「しあわせ」、SNS等の充実） 社協パンフレットの充実

2月に「ふれあい配食」（一人暮らし高齢者にお弁当の配食）を計画しています。民生・児童委員が案内させていただきますので、遠慮なく申込みください。

5月に大内川に掲流しています鯉のぼりの数が少なくなっています。ご家庭で使用しなくなった鯉のぼりがありましたら福祉推進協議会までお知らせください。

編集後記

暖冬の今年ですが、節分・立春と暦の上では春が近づいてきています。

今年度の予定していた行事も順調に実施できています。

写真でも見て頂いていますふれあい交流会（保育園児との交流）では、保育園児の明るい歌声やダンスで、高齢者の皆様の顔が楽しそうに生き生きとされているのが印象的でした。園児とハグされている皆様は本当に幸せいっぱいでした。

「ふれあいひろば」等、実施しています交流の場にたくさん参加いただき、楽しい交流を続けていけたらと考えています。ご協力を宜しくお願いいたします。

福知山市社会福祉協議会

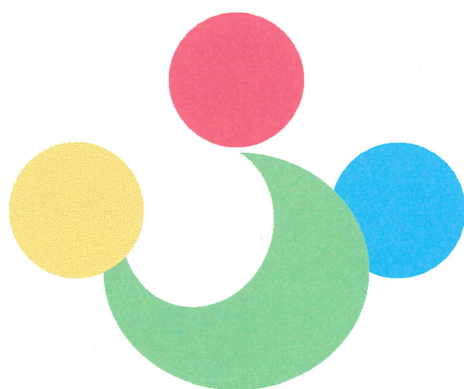
第3次福知山市地域福祉活動計画

2018(平成30)年度から2022(平成34)年度 5か年計画

概要版

みんなでつくる 共に幸せを生きるまち ふくちやま

～誰もが安心して暮らせる共に支え合える地域をめざして～



福知山市社協

社会福祉法人 福知山市社会福祉協議会

基本理念

みんなでつくる 共に幸せを

～誰もが安心して暮らせる共に

福知山市社会福祉協議会では、2011年（平成23）年度より関係組織や福祉関係団体、行政と連携して2018（平成30）年度より5年間の第3次活動計画では、これまでの活動計画の評価や、関係団体への「住民主体の福祉のまちづくり」をさらに強く推進します。

基本目標

一人ひとりが地域福祉の担い手となるように
～寄り添い、支え愛あふれる
ところづくり～



地域で課題解決に取り組めるように
～参加と協働による
福祉のまちづくり～



住み慣れた地域で
生活し続けるために
～尊厳の尊重と自立支援の
しくみづくり～



方向性

「お互いさま」のころを
育みましょう



ひとりぼっちのない
地域づくりを考えましょう



地域の「力合わせ」を
大切にしましょう



地域の防災力を高めましょう



たくさんの人とふれあう場を
つくりましょう



安心して暮らしていける
地域づくりを考えましょう



何でも気軽に相談できる体制を
つくりましょう



必要な情報を必要な人に
届けましょう



第3次地域福祉活動計画がスタート

生きるまち ふくちやま



支え合える地域をめざして～

「地域福祉活動計画」を策定し住民同士の支え合いによる地域福祉の推進に取り組んできました。ヒアリングにより把握した課題への対応、また福知山市地域福祉計画との連携を図りながら

わたし・地域の願い・思い・声

福祉について勉強してみたい
赤い羽根共同募金は何に使われているのだろう
地域であいさつや声かけをする
サロンって何かな？ 私もやってみたい
気軽に行ける居場所がほしい
困っている人に何かしたい

地域の活動に協力したい
さまざまな取り組みを応援する
ちょっと困っていることを助けてほしい
子育てが大変…誰か助けてほしい
空き時間に今までの経験を活かしたい
災害が起きたとき、一人だと不安だ
普段から防災や災害時の対応ができるようになりたい
たくさんの人と交流したい
困っている人を見かけたら声をかける
ボランティア活動に参加する

出来る限り住み慣れたところで暮らし続けたい
免許返納をしたけど外出したい
福祉の協力者となる
困っているときに支えてくれるところがあったら安心だ
相談の窓口が多いけど、どこに相談したらいいかわからない
様々な制度や取り組みについて知りたい
広報やホームページ等から情報収集をする

福祉推進の取り組み

福祉教育の推進（社会福祉体験学習、ボランティア育成）
福祉講座等（福祉出前講座、障害への理解）
共同募金運動

ふれあいいきいきサロン
居場所づくり
見守り活動の充実
信頼される組織づくり

地区福祉推進協議会との連携・支援
ささえあいパートナー事業
子育てファミリー・サポート・センター事業

災害ボランティアセンターの運営
（防災講演会、市民サポーター養成、地域協働訓練）
防災ネットワークづくり

当事者との交流（つどい）
当事者事業との連携
ボランティア事業

生活困窮者フードバンク事業
安心生活見守り事業
在宅福祉サービス（介護保険内外サービスの充実、
外出支援サービス、障害者在宅支援事業）
あんしん・みらい事業
福祉サービス利用援助事業の推進
生活福祉資金貸付事業の推進
成年後見事業（市民後見人の育成）

関係機関等との連携強化
ふれあい福祉相談事業の充実

広報活動
（ホームページや広報誌「しあわせ」、SNS等の充実）
社協パンフレットの充実

地域の福祉は、
多くの人々の参加により支えられています

地域福祉に取り組むメンバー

